



# さんむ医療センターからのお知らせ

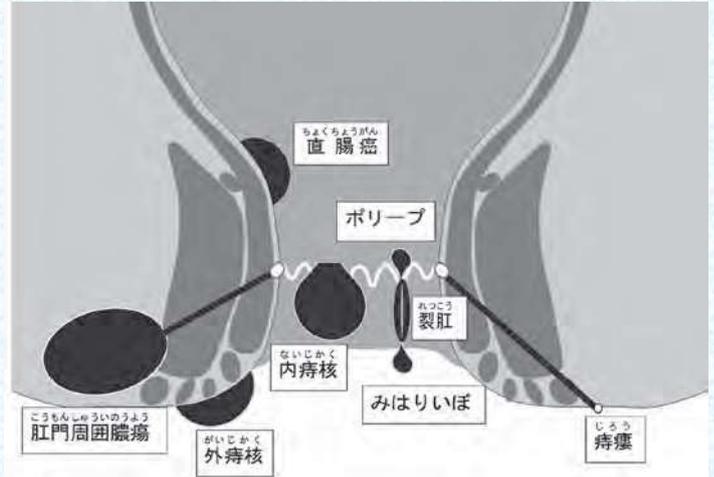


令和元年11月より「おしりとおつうじの外來」を新規に開設しました。専門資格を持った医師が、月曜日と水曜日の週2回、診察を行っています。これまで、山武・九十九里地域には、おしりやおつうじの専門医がいなかったことから、開設以来数多くの患者さんが受診され、投薬治療や手術を受けています。女性医師が診察しますので、女性でも受診しやすい体制となっています。

## ◆肛門疾患に多く見られる症状

外來に来られる患者さんの最も多い症状は、肛門の「はれ」です。

この肛門の「はれ」には、実はさまざまな病気があります。代表的なものとしては肛門の内部が腫れている「内痔核」、外側に血豆ができた「外痔核」、切れ痔が繰り返されてできた「みはりいぼ」、皮膚の下に膿みがたまっていた「肛門周囲膿瘍」、直腸が脱出している「直腸脱」などがあり、その他にはポリープや癌などもあります。これらの病気には薬だけで改善するものもあれば、手術が必要なものもあります。放置すると悪化したり、重症化したりすることがありますので、症状がある際は早めに相談して頂けたらと思います。「はれ」以外にも「出血」や「痛み」で受診される患者さんが多数います。このような症状で受診された患者さんの中には、大腸癌が判明する方も少なからずいます。コロナ禍の影響で公的検診も控えられ、症状があっても受診を躊躇する方が多く、大腸癌がより進行した状態で発見される傾向があります。「出血」や「痛み」がある際は、早急に受診していただきたいと思います。



「はれ」以外にも「出血」や「痛み」で受診される患者さんが多数います。このような症状で受診された患者さんの中には、大腸癌が判明する方も少なからずいます。コロナ禍の影響で公的検診も控えられ、症状があっても受診を躊躇する方が多く、大腸癌がより進行した状態で発見される傾向があります。「出血」や「痛み」がある際は、早急に受診していただきたいと思います。

## ◆検査の種類

肛門の診察をしてみて、症状の原因がおしりではなくさらに奥の大腸であると判断した場合には、精密検査を進めていきます。検査方法には大腸内視鏡だけでなく、下剤が不要なS状結腸までの内視鏡、腸を空気で膨らませて撮影するCT検査、造影剤を肛門から流す注腸検査など、体への負担が少ないものもあります。以前に比べて楽に検査を受けられるようになっていますので、お気軽にご相談ください。

## ◆不安な際はご相談を

おしりの病気の背景には、便秘や下痢などのおつうじの異常が隠れていることが多々あります。そのような場合には、飲み薬でおつうじを調整させていただきます。現在、多くのおつうじの薬が開発されておりますので、専門的知識にもとづき、適切な薬を探すお手伝いもさせていただきます。

肛門疾患自体は不要不急のものが多いですが、肛門からの出血や痛みは命にかかわる疾患が隠れている可能性もあります。重要なのは、早期に受診して現在の病状を正確に把握することです。その上で、患者さん一人一人の悩みやライフスタイルにあった最適最善な治療法を見つけることが大切です。気になる症状や悩みがある際は、お気軽にご相談ください。

地方独立行政法人さんむ医療センター

大腸肛門外科医長 碓井麻美



☎ さんむ医療センター ☎ 0475 (82) 2521 (代表番号)